

風水害に備えよう

1. 安全な避難路の確保を



避難場所までの経路(避難路)は、あらかじめ自分たちで決めておく、安全に進行できるかを確認しておきましょう。

2. 非常持ち出し品の事前準備を

避難するときの持ち物は家族人数とし、事前に準備しておきましょう。



3. 正確な情報収集と自主的避難を

ラジオなどで最新の気象情報、火災情報、避難情報に注目しましょう。向かっている方向が変化する状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



4. 避難の呼びかけに注意を

避難があったときには、気象庁や消防隊等から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、早やかに避難してください。



風水害に備えよう

でも、どうやって備える???

平常時の準備

家のまわりを保全する

- ・雨戸や屋根を補強する。
- ・アンテナはしっかり固定する。
- ・鉢植えや、物干しざおなど飛ばされそうなものは屋内へ移動するか固定する。
- ・プロパンバスのボンベをしっかりと固定する。
- ・ブロック塀や、外壁のひび割れや亀裂は補強する。
- ・排水路が詰まらないよう、普段から清掃する。

停電に備える

- ・懐中電灯や、携帯ラジオ、予備の電池を準備しておきましょう。

非常持出品の準備

- ・避難勧告や指示が出たとき、すぐに動けるように、貴重品や非常持出品の準備をしておきましょう。

断水に備える

- ・飲料水を確保する。
- ・浴槽に水を張るなどして、トイレなどの生活用水の確保もしておきましょう。



被害が心配されるときには・・・

気象情報に注意する

- ・テレビやラジオで発表される気象庁からの警報・注意報や消防団、警察署、市区町村からの情報に注意しましょう。
- ・気象庁が発表する情報は、電話(177)でも確認することができます。
- ・また、崖の亀裂や水位の変化など、身近な環境の変化にも注意を。

むやみに外出しない

- ・台風が接近しているときや、豪雨の危険性があるときは、むやみに外出しないように。
- ・外出時には天気予報を確認し、少しでも危険を感じる場所には近づかないことです。



窓ガラスを補強する

- ・外から板でふさいだり、×印にガムテープを貼るなどして補強を。
- ・ガラスが飛ばないように、内側からカーテンを引く。

安全な場所に避難する

- ・被害が想定される場合には、事前に子どもや高齢者、病人などを安全な場所に避難させておきましょう。

家財道具を移動させる

- ・浸水が心配される場合は、家財道具や貴重品、生活用品、食料などを高い場所へ移動させておきましょう。

地震が起きたらどうする？

地震発生



- 建物の中にいたら
まずは自分の身を守る！
机の下などにもぐり、倒れてくる家具や落下物に注意する。
ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する
火災を防ぐ！
揺れがおさまったらコンロの火を消し、ガスの元栓を開める。
- 外にいたら
狭い道や橋に近寄らない！
ブロック塀・門柱・自動販売機などは倒れやすいので近寄らない。
山・崖崩れ、川べり、津波に注意！
山間部の急傾斜地や川べりは、地盤がゆるみ危険。また沿岸地域では津波のおそれがあるので、地震を感じたら、ただちに避難する。

1~2分

- 出火していたら初期消火
靴をはく、ガラスの破片などから足を守る。
家族の安全を確認
非常持出品を手近に用意する



3分

- 隣近所の安全を確認
特に高齢者などがいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認。
火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火する。
余震に注意



5分

- ラジオなどで情報を確認
家屋倒壊等の恐れがあれば避難する
車は使用しない(山岳部などの一部地域を除く)。

5~10分

- 電気のブレーカーを切る
自宅を離れるときは、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す

10分~数時間

- 消火・救出活動
隣近所で協力して消火・救出。
あわせて消防署等へ通報する。

- 災害発生から3日間は外からの応援は期待できない
災害情報、被害情報の収集
離れた家には入らないこと
自主防災組織を中心に行動を
集団生活のルールを守る
助け合いの心



~3日くらい

避難生活では

風水害に備えよう

危険は急激に迫ってくる！

大雨のとき

河原では・・・

- ・河原などでは、上流の豪雨による急な増水や土砂崩れの危険があります。
- ・雨のときには川などに近寄らないことが一番です。
- ・もし、河川にいるときに警報が聞こえたら、すみやかに避難しましょう。

車の運転中は・・・

- ・豪雨の際は、視界が悪いうえに、操作が効かなくなることも、できるだけ道路の中心寄りの水が浅い場所を選びながら、ゆっくりと高台へ避難しましょう。
- ・浸水でエンジンしたら、エンジンを痛めてしまうので、再始動させないようにします。

路上で浸水してきたら・・・

- ・高い建物へ避難しましょう。
- ・その際、エレベーターは閉じ込められる危険があるので、なるべく階段を使って上の階へ上りましょう。

土砂災害は前兆に注意を！

- こんな現象を見たら・・・聞いたら・・・「早めの避難、日頃の備え」
土砂災害の多くは雨が原因で起こります。
1時間に20ミリ以上、または、降り始めから100ミリ以上になったら要注意！

崖崩れの前兆

- ・崖から水がわき出ている。
- ・地下水や湧水が止まる。
- ・斜面のひび割れ、変形がある。
- ・崖から小石がバラバラ落ちてくる。
- ・崖から音がする。
- ・異様なにおいがする。

土石流の前兆

- ・山鳴りがする。
- ・急に川の流が濁ったり、流木が漂っている。
- ・雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。

地すべりの前兆

- ・地面にひび割れができる。
- ・井戸や沢の水が濁る。
- ・崖や斜面から水が噴き出す。
- ・家やようへきに亀裂が入る。
- ・家やようへき、樹木、電柱が傾く。



前ぶれがあったら、むだ足賃格で即避難！！

雨の強さと降り方、風の強さと吹き方



やや強い風

- ・風速10m/秒以上~15m/秒未満
- ・風に向かって歩きにくくなる
- ・傘がさせない
- ・樹木全体が揺れる
- ・電線が鳴る

やや強い雨

- 雨量10mm/時以上~20mm/時未満
- ・地面からの跳ね返りで足元が濡れる
- ・地面一面に水たまりができる

非常に強い風(暴風)

- 風速20m/秒以上~30m/秒未満
- ・しっかりと身体を確保しないと、転倒する



猛烈な風

- 風速30m/秒以上~
- ・立っていられない、屋外での行動は危険
- ・樹木が根こそぎ倒れ始める

激しい雨

- 雨量30mm/時以上~50mm/時未満
- ・傘をさしていても濡れる
- ・道路が川のようになる

猛烈な雨

- 雨量80mm/時以上
- ・傘は全く役に立たなくなる
- ・水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる



